

藤華祭



生徒会担当教諭

鈴木 真之介

「結」のかたち

9月23日、第6回藤華祭を無事に開催することができました。夏休み前から計画を立て、準備を重ねてきた全ての成果を発揮し、多くを得ることができた素晴らしい一日となりました。今年度のテーマは「結」。生徒会役員会・議長団が幾度となく議論を重ね、今年らしさを湛えた、今年のメンバーでしか生み出せない唯一のテーマです。過去の藤華祭で築き上げてきたものと、今年の藤華祭とを「結」ぶもの。縦や横のつながりはもちろんのこと、多くの来校者と自分たちとを「結」ぶもの。藤華祭だけにとどまらず、活動で得たものをこれからの学校生活とも「結」ぶもの。様々なつながりを生み出していくことを願いとして設定された「結」というテーマのもと、それぞれのプロジェクトで個性豊かな、創造性に溢れた活動が展開されました。始めにはまだはつきりが見えていなかった「結」のかたちが、それぞれのプロジェクトでの準備活動を通して少しずつ見えてきたように思います。いつまでに何をしなければならぬか、活動には何が必要かを綿密に話し合い、協力し合う姿。また、プロジェクトの枠を越えてお互いに連携を取り合い、よりよいものを創り上げようとする姿。全てのプロジェクトで「結」を意識した活動を展開し、はつきりと具現化した発表を完成させることができました。

玄関・1F 装飾



▲玄関・1F 装飾プロジェクトが、玄関前階段を、第6回藤華祭テーマ「結」の文字とカラフルな帯で飾りました。



▲玄関アーチが、今年は少し新しくなりました。力の作用を考えながら、箱を積み重ねました。

玄関の窓には、今年はテーマの文字と写真を新たに貼り付けました

今年度の藤華祭で特筆すべきは、前日の会場設営から当日の運営にかけて、その全てを生徒自身の手でおこなっていたことです。藤華祭特別委員会の生徒が入念に計画を立て、責任をもって指示を出し、その姿に対して全校の生徒が誠実に応えました。もちろん全てがうまくいったわけではありません。しかし、そんな時こそ、学年の枠を越えて仲間同士で声を掛け合う瞬間が生まれていました。まさに「結」がかたちとなって見える瞬間でした。当日のうちにほぼ全ての片付けが終わっていたことも、プロジェクトの枠を越えた全ての生徒のつながりの強さの証だと感じました。しかし、生徒の力だけでは第6回藤華祭の成功は語り尽くせません。熱心な演劇指導をして下さった劇団四季の皆様、楽しいバザーの時間を提供して下さい

ったPTA厚生委員会の皆様、運営面でご協力頂いたPTAの皆様、さらには昨年度よりもパワーアップしたPTA発表で素晴らしい歌声を披露して下さいましたPTA合唱団の皆様、そして、ご参加下さった全ての児童・保護者、地域の皆様方との「結」が、今年度の藤華祭を成功に導いたのだと思います。改めて、深く感謝申し上げます。



▲体育館装飾プロジェクトが、体育館の壁に3×4mほどの大きな絵を作成し貼りました。なお、デザインの蝶は、テーマである結⇒ちょうちょ結び⇒蝶、と連想しました。



体育館の後方の壁一面には、左のように、各学級の生徒に作成を依頼した蝶の切り絵を無数に貼り付けました。



体育館装飾



「結」にちなみ、リボンをあしらった不織布を天井からダイナミックに、かつ美しく垂れ下げました



▲ランチルームの窓にカットシールを貼ってデザインしました。



▲テーマの「結」から、保護者の皆様との架け橋となるというコンセプトのもと、「虹」をデザインしました。



ランチルーム装飾

